

# 北見工業大学学報

第228号 (2008年7月号)

## 目 次

入 試	平成21年度編入学試験の実施……………	2	
	平成21年度入学者選抜要項の公表……………	2	
研 究 助 成	平成20年度科学研究費補助金交付内定 (特別研究員奨励費第2回)……………	5	
	科学技術振興機構(JST)平成20年度シーズ発掘試験採択課題決定……………	6	
	平成20年度(財)北海道河川防災研究センター研究助成交付決定……………	6	
	平成20年度(財)河川環境管理財団河川整備基金助成事業交付決定……………	6	
	平成20年度(財)クリタ水・環境科学振興財団研究助成交付決定……………	6	
	平成20年度共同研究の受入状況……………	7	
	平成20年度受託研究の受入状況……………	8	
	平成20年度奨学寄附金受入状況……………	9	
	諸 報	薬品管理支援システム全学説明会を開催……………	10
		禁煙に関する特別講演会を開催……………	11
「平成19年度ベストティーチング賞」表彰式を実施……………		12	
父母懇談会(春季・北見)を開催……………		13	
北海道知的財産情報センターサテライト開所……………		14	
オープンキャンパスの実施……………		15	
「ものづくり工房」使用の手引きの一部改正について……………		16	
日 誌	6月・7月……………	17	

## = 入試 =

### 平成 21 年度編入学試験の実施

(入 試 課)

平成 21 年度編入学試験の推薦による選抜、学力試験による選抜が実施され、各学科別の合格者数等は次表のとおりとなりました。

なお、編入学試験の社会人特別選抜については、志願者がいなかったため実施されませんでした。

学 科 名	推薦による選抜				学力試験による選抜			
	募集人員	志願者	受験者	合格者	募集人員	志願者	受験者	合格者
機械システム工学科	10 人	0	0	0	若干人	2	2	1
電気電子工学科		1	1	1		2	2	1
情報システム工学科		0	0	0		1	1	1
化学システム工学科		0	0	0		0	0	0
機能材料工学科		0	0	0		0	0	0
土木開発工学科		1	1	0		0	0	0
合 計			2	2		1		5

### 平成 21 年度入学者選抜要項の公表

(入 試 課)

平成 21 年度入学者選抜要項が 7 月に公表されました。概要は以下のとおりです。

※詳細については本年 10 月発行予定の学生募集要項をご覧ください。

○入学定員（募集人員）

系・学科名		入学定員	募集人員		
			前期日程	後期日程	推薦入学
機 械 ・ 社 会 環 境 系	機 械 工 学 科	1 6 0 人	6 4 人	5 6 人	4 0 人
	社 会 環 境 工 学 科				
情 報 電 気 エ レ ク ト ロ ニ ッ ク ス 系	電 気 電 子 工 学 科	1 4 0 人	6 3 人	4 2 人	3 5 人
	情 報 シ ス テ ム 工 学 科				
バ イ オ 環 境 ・ マ テ リ ア ル 系	バ イ オ 環 境 化 学 科	1 1 0 人	4 6 人	3 6 人	2 8 人
	マ テ リ ア ル 工 学 科				
工 学 部 合 計		4 1 0 人	1 7 3 人	1 3 4 人	1 0 3 人

※ 入学後 1 年間は各系に所属し、2 年次進級時に本人の志望及び学業成績により系内の学科に移行します。

- 注① 後期日程の募集人員には、各系とも帰国子女特別選抜の募集人員若干人を含みます。  
 ② 推薦入学の合格者が募集人員に満たない場合は、その不足した人員を後期日程の募集人員に加えて募集します。

○選抜方法等

一般選抜

	前期日程	後期日程
選抜方法	大学入試センター試験の成績及び出身学校長から提出された調査書の内容を総合して行う。	大学入試センター試験の成績、本学が行う個別学力検査の成績及び出身学校長から提出された調査書の内容を総合して行う。
出願期間	平成 21 年 1 月 26 日（月）から平成 21 年 2 月 4 日（水）まで(必着)	
試験日	個別試験は課さない	平成 21 年 3 月 12 日（木）
合格発表	平成 21 年 3 月 6 日（金）	平成 21 年 3 月 20 日（金）

推薦入学

選抜方法	学校長より推薦された者について、調査書、推薦書の内容及び小論文、面接の結果を総合して行う。	
出願期間	平成 20 年 11 月 4 日（火）～平成 20 年 11 月 10 日（月）	
出願要件	高等学校若しくは中等教育学校を平成 21 年 3 月卒業見込みの者で、次の二つの条件を満たし、かつ志望する系への能力・適性等について学校長が責任を持って推薦できるもの ①高等学校若しくは中等教育学校における学習成績・人物ともに優れ、特に数学、理科の成績が優秀な者 ②志望する系の分野に強い勉学意識と関心を持ち、大学での学習において優れた成果が期待できる者	
選抜期日	平成 20 年 12 月 5 日（金）（小論文・面接）	
合格発表	平成 20 年 12 月 17 日（水）	

帰国子女特別選抜

選抜方法	個別学力検査及び大学入試センター試験を免除し、成績証明書等の成績、小論文及び面接の結果を総合して行う。	
出願要件	略	
出願期間	平成 20 年 11 月 4 日（火）～平成 20 年 11 月 10 日（月）	
選抜期日	平成 20 年 12 月 5 日（金）（小論文・面接）	
合格発表	平成 20 年 12 月 17 日（水）	

○試験教科・科目・配点

		教科	科目	配点	合計
前期日程	センター試験 (5教科7科目)	国語	国語1科目	100	1000
		地歴・公民	地理歴史または公民から1科目	50	
		数学	数Ⅰ、数Ⅰ・数Aから1科目	300	
			数Ⅱ・数B、工業数理基礎から1科目 注①		
		理科	理科から2科目	300	
	外国語	外国語から1科目 注②	250		
個別学力検査	課さない				
後期日程	センター試験 (5教科7科目)	国語	前期日程と同じ	50	1000
		地歴・公民		50	
		数学		100	
		理科		100	
		外国語		200	
	個別学力検査	数学		数Ⅰ、数Ⅱ、数Ⅲ、数A、数B、数C	
理科		物Ⅰ・物Ⅱ、化Ⅰ・化Ⅱから1科目	200		

注①：工業数理基礎を選択できる者は当該科目の履修者等

注②：外国語のうち、英語にはリスニングテストを含む

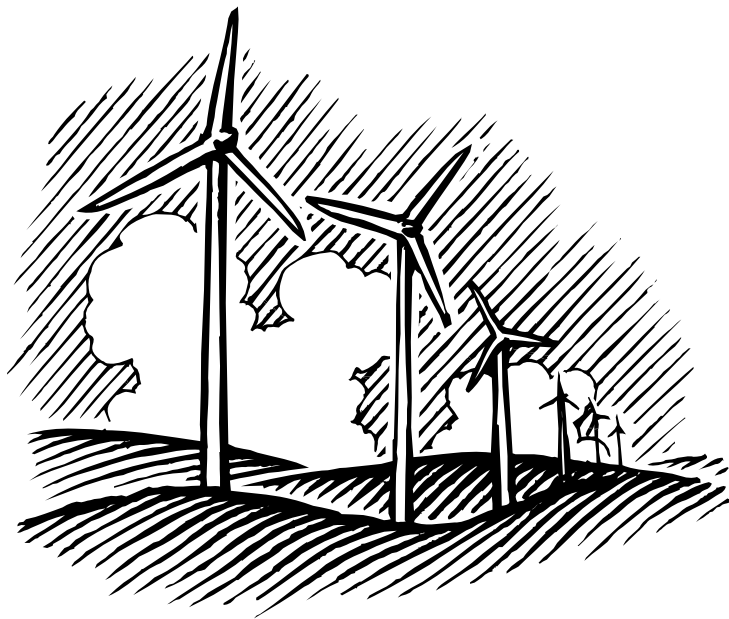
= 研究助成 =

平成20年度 科学研究費補助金交付内定(特別研究員奨励費 第2回)

(研究協力課)

○特別研究員奨励費

外国人特別研究員	受入研究者	職名	研究課題	交付内定額	新規	継続
Muyeen,S.M.	田村 淳二 (電気電子工学科)	教授	風力発電機・水素製造装置・蓄電キャパシターから成る新しいウインドファームの構築	800千円 (平成21年度 800千円)	○	



科学技術振興機構（JST） 平成 20 年度 シーズ発掘試験 採択課題決定

(研究協力課)

所 属	職 名	氏 名	研 究 課 題	交 付 金 額
社会環境工学科	准教授	堀 彰	普及型車載凍結路面検知システムの試作開発研究	2,000 千円
情報システム工学科	助 教	前田 康成	既存データが少量でも分類可能な文書分類技術の開発と応用	2,000 千円
情報システム工学科	教 授	三浦 則明	液晶素子を利用する凍結路面検出装置の開発	2,000 千円
マテリアル工学科	准教授	川村 みどり	高耐熱性銀薄膜を応用した新規透明導電膜の開発	2,000 千円
マテリアル工学科	准教授	伊藤 英信	酢酸カルシウム系多機能凍結防止剤の開発	2,000 千円

平成 20 年度（財）北海道河川防災研究センター 研究助成 交付決定

(研究協力課)

所 属	職 名	氏 名	研 究 課 題	交 付 金 額
社会環境工学科	教 授	中山 恵介	地球温暖化による海面上昇が釧路川の治水・環境に与える総合的環境評価	1,500 千円

平成 20 年度（財）河川環境管理財団 河川整備基金助成事業 交付決定

(研究協力課)

所 属	職 名	氏 名	研 究 課 題	交 付 金 額
社会環境工学科	教 授	渡邊 康玄	豪雨災害に対しての防災対策を推進するための調査研究～谷底平野における氾濫流の挙動に基づく減災・避難体制に関する研究～	2,000 千円

平成 20 年度（財）クリタ水・環境科学振興財団 研究助成 交付決定

(研究協力課)

所 属	職 名	氏 名	研 究 課 題	交 付 金 額
社会環境工学科	教 授	中山 恵介	超高濁度水の発生要因解明と予測技術の開発	750 千円

## 平成20年度共同研究の受入状況

(研究協力課)

平成20年7月31日現在

所 属	職 名	研究代表者	研 究 題 目	民 間 機 関 等
社会環境工学科	教授	鈴木 輝之	機能性コンクリートに適用する化学混和剤の研究	日産化学工業(株)
社会環境工学科	教授	山下 聡	連続繊維補強土工法におけるのり面基盤の力学特性	日特建設(株)
社会環境工学科	教授	川村 彰	顧客満足度(CS)を指標とした路面評価システムの構築に関する研究	(株)ニュージェック
機械工学科	准教授	松村 昌典	住宅用24時間換気システムにおける研究	日本電興(株)
機械工学科	准教授	林田 和宏	分解系灯油基材の酸化安定性、燃焼性に関する検討	(財)石油産業活性化センター
地域連携・研究戦略室	特任教授	多田 旭男	鉄鉱石を用いる炭酸ガス分解技術に関する基礎研究	JFE技研(株)
電気電子工学科	教授	谷本 洋	アナログ高周波回路技術	(株)トッパン・テクニカル・デザインセンター
マテリアル工学科	教授	高橋 信夫	北海道ガス(株)が道央圏で供給する天然ガスのハイドレート化に関する基礎的研究	北海道ガス(株)技術開発研究所
社会環境工学科	教授	榎本 浩之	マイクロ波/ミリ波を用いた路面状況センサの開発	三菱電機特機システム(株)
国際交流センター	教授	山岸 喬	機能性食品素材の工業生産技術開発	北海道三井化学(株)植物機能センター
社会環境工学科	教授	川村 彰	高速道路における走行安全性・快適性に関する共同研究	(株)高速道路総合技術研究所
電気電子工学科	教授	谷本 洋	超低電圧動作アナログ回路の研究	(株)ルネサステクノロジ
社会環境工学科	准教授	高橋 清	基準化された移動(モビリティ)指標の構築とそれを用いた将来都市構造のコモン化研究	日産自動車(株)
社会環境工学科	教授	榎本 浩之	Polar Cryospheric Monitoring related Global Environmental Change using GCOM-WAMSR2	(独)宇宙航空研究開発機構
機械工学科	准教授	林田 和宏	新規燃料装置を用いた完全燃焼技術の開発	北見市/(株)高木園芸
国際交流センター	教授	山岸 喬	北見産ハーブ精油によるアロマオイルの開発	北見市/企業組合北見産学医協働センター
バイオ環境化学科	准教授	岡崎 文保	廃油を原料とした寒冷地用バイオディーゼル燃料の高品質化技術の開発	北見市/(株)ケイアイエフ

平成20年度累計 65件

## 平成20年度受託研究の受入状況

(研究協力課)

平成20年7月31日現在

所 属	職 名	研究担当者	研究題目及び研究期間	委託機関	所要経費
地域共同 研究センター	教授	高橋 修平	新時代工学的農業クリエイター人材創出プラン（文部科学省科学技術振興調整費事業）	文部科学省	円 46,798,915
バイオ環境化学科	准教授	岡崎 文保	厨房関係で発生する悪臭等の消臭効果に関する研究	(株) 環境ダイゼン	1,300,000
地域共同 研究センター	工農教育 プロジェクト	住佐 太	ホタテ煮汁を活用した新製品の開発	(株) しんや	500,000
バイオ環境化学科	准教授	三浦 宏一	マリン・イノベーションによる地域産業網の形成	(財) 函館地域産業振興財団	700,000
電気電子工学科	助教	仲村 宏一	電気二重層キャパシタの性能向上手法に関する研究	日産ディーゼル工業 (株)	700,000
情報システム工学科	助教	前田 康成	既存データが少量でも分類可能な文書分類技術の開発と応用	独立行政法人科学技術振興機構 JSTイノベーションプラザ北海道	2,000,000
マテリアル工学科	准教授	川村 みどり	高耐熱性銀薄膜応用した新規透明薄膜の開発	独立行政法人科学技術振興機構 JSTイノベーションプラザ北海道	2,000,000
マテリアル工学科	准教授	伊藤 英信	酢酸カルシウム系多機能凍結防止剤の開発	独立行政法人科学技術振興機構 JSTイノベーションプラザ北海道	2,000,000
情報システム工学科	教授	三浦 則明	液晶素子を利用する凍結路面検出装置の開発	独立行政法人科学技術振興機構 JSTイノベーションプラザ北海道	2,000,000
社会環境工学科	准教授	堀 彰	普及型車載凍結路面検知システムの試作開発研究	独立行政法人科学技術振興機構 JSTイノベーションプラザ北海道	2,000,000
機械工学科	准教授	林田 和宏	ディーゼル機関の軽負荷燃焼の改善ー白煙、臭気に関する研究ー	いすゞ自動車 (株)	1,260,000
地域共同 研究センター	教授	鞘師 守	戦略展開プログラム（知的財産活動基盤の強化）	文部科学省	6,000,000

平成20年度累計 14件



## 平成20年度奨学寄附金受入状況

(研究協力課)

平成20年7月31日現在

所 属	職 名	研 究 者	寄 附 目 的	寄 附 者	寄附金額
機器分析センター長 バイオ環境化学科	教授	吉田 孝	廃棄物再生技術に関する研究のため	(株)東芝	円 300,000
社会環境工学科	教授	山下 聡	工学研究のため	(株)豊水設計	100,000
未利用エネルギー 研究センター	教授	庄子 仁	工学研究のため	(株)豊水設計	100,000
社会環境工学科	准教授	早川 博	工学研究のため	(株)豊水設計	100,000
社会環境工学科	教授	大島 俊之	工学研究のため	(有)アミューズ	100,000
社会環境工学科	准教授	後藤 隆司	工学研究のため	(有)アミューズ	100,000
電気電子工学科	教授	柏 達也	FDTD法による大規模電磁界シミュレーションに関する研究奨励のため	(株)本田技術研究所四輪開発センター	1,500,000
機械工学科	教授	大橋 鉄也	大橋教授の計算工学による組織と特性予測技術に関する研究助成	(社)日本鉄鋼協会	290,000
技術部	技術部員	岡田 包儀	ハンマーによる劣化した寒冷地水路コンクリート構造物の機能診断手法の技術指導	日東建設(株)	550,000
社会環境工学科	准教授	宮森 保紀	橋梁モニタリング技術の開発研究のため	(株)フジエンジニアリング	700,000
電気電子工学科	教授 助教	田村 淳二 高橋 理音	「風力発電出力変動に伴う電力系統への影響低減策に関する研究」	北海道電力(株)	1,000,000
国際交流センター	教授	山岸 喬	教育研究助成のため	共成製薬(株)	700,000
社会環境工学科	教授	中山 恵介	地球温暖化による海面上昇が釧路川の治水・環境に与える総合的環境評価	(財)北海道河川防災研究センター	1,500,000
機械工学科	准教授	渡辺 美知子	機械工学の研究	(株)コンピューター・ビジネス	100,000
社会環境工学科	教授	大島 俊之	橋梁用ゴム部材耐震機能装置の低温条件下における機能特性の研究	(株)ブリヂストン	400,000
社会環境工学科	教授	鈴木 輝之	ハニカム型土壌安定棒(テラセル)による法面保護工の耐凍上性実験研究のため	東京インキ(株)	525,000
電気電子工学科	教授	田村 淳二	学術研究助成の為	(株)日立製作所 日立研究所	2,310,000

平成20年度累計 29件

## 薬品管理支援システム全学説明会を開催

(施 設 課)

本学では、薬品を取り扱う教職員や学生を対象とし、薬品管理支援システム全学説明会を4月25日及び6月2日の2回にわたって開催しました。

薬品の使用については教育研究活動を行う現場の環境・安全・健康面に影響を及ぼす恐れがあることから厳重な管理が求められており、薬品の受払管理を支援するために本学の技術部職員の協力を得て、独自のシステムを開発しました。今回の説明会はその概要及び運用方法について周知を図る目的で行われ、2日間で延べ75名の教職員及び学生が参加しました。

本学環境安全センター化学物質管理グループ所属の教員より、システムの概要と特徴、管理体制、システムの導入方法、受払の入力方法等の説明が行われ、参加者は多くの質問及び要望を出し、本システムの運用方法について入念に確認をしました。

センター長である高橋理事・副学長からは、薬品管理に対する社会の目は厳しくなっており、本システムを活用し薬品管理をしっかり行って欲しい旨の話があり、参加者は薬品管理に対する意識をより一層高めました。



←システムの説明を受ける参加者



質問を行う参加者→

## 禁煙に関する特別講演会を開催

(施設課)

6月6日に本学の大学講堂にて、受動喫煙の防止と安全かつ快適な教育研究環境の形成を図ることを目的として、奈良女子大学保健管理センターの高橋裕子教授を講師として招き、教職員及び学生を対象として「タバコのうそ・ほんと～タバコの無い大学～」と題した特別講演会を開催しました。

多くの学生及び教職員が講演に興味を示し、合わせて587名が参加しました。

講演では、タバコに含まれる有害物質や喫煙による健康への影響、受動喫煙防止の必要などを写真やビデオなど交えて説明。高橋教授は「タバコをやめたくてもやめられないのは脳の病

気である」と話し、治療方法として今年6月から薬局で購入可能なニコチンパッチの紹介を行いました。

また、禁煙マラソン事務局長を務め、高橋氏と一緒に禁煙普及活動を行っている三浦秀史氏も講演を行い、「世の中はタバコのない世界に向かっていく。タバコをやめるのは大変だが、最初から吸わないことは誰でも簡単にできる」と訴えました。

講演後、多くの学生が両氏に積極的に質問を行い、タバコに対する考え方を改めました。



講演する高橋教授

## 「平成 19 年度ベストティーチング賞」表彰式を実施

(学生支援課)

6月13日(金)、平成19年度ベストティーチング賞の表彰式を実施しました。

同賞は平成13年に創設されたもので、今回は平成19年度に実施した学生による授業評価の結果、授業に対する準備、熱意、指導等が顕著であるとされた教員7名(各学科6名、共通講座1名)が受賞し、このうち1名は3度目、3名は2度目の受賞となりました。

なお、授業形態や教材などの工夫で教育改善が顕著であった教員を表彰する「エクセレントプログラム賞」の該当者はありませんでした。

表彰式では、学長から一人ひとりに盾が授与された後、学長から受賞者に対しお祝いの言葉がありました。

受賞された方々は、以下のとおりです。

### 「ベストティーチング賞」

機械工学科	准教授	山田	貴延
社会環境工学科	助教	館山	一孝
電気電子工学科	准教授	菅原	宣義
情報システム工学科	教授	山田	浩嗣
バイオ環境化学科	准教授	星	雅之
マテリアル工学科	准教授	宇都	正幸
共通講座	准教授	阿曾	正浩

### 「エクセレントプログラム賞」

該当者なし



学長を中央に「平成19年度ベストティーチング賞」受賞者

## 父母懇談会（春季・北見）を開催

（学生支援課）

例年、札幌で開催している「父母懇談会（春季）」を、今年度より大学祭の開催に併せ6月21日（土）本学を会場として、外国人留学生及び大学院博士後期課程を除く全学生の父母を対象に実施しました。

当日は、全国から142組198名の父母が参加し、まず始めに全体説明会において、鮎田学長から挨拶があった後、田牧副学長からは「本学の教育及び就職状況等」について説明がありました。また、学生後援会会長からは、

後援会の活動状況が報告されるなど、様々な情報が父母に提供されました。

その後、各学科・専攻に分かれた個別面談では、各学科の教員が対応し、父母からは修学状況、就職等について質問が出され、熱心なやりとりが交わされました。

また、説明会場前においては、昨年3月に大学認定商品となった菓子「雪まりも」の他、大学関連グッズの販売を行い、参加した父母からは大好評でした。



全体説明会の様子

## 北海道知的財産情報センターサテライト開所

(研究協力課)

7月1日(火)、本学地域共同研究センター内に設置されたTV会議システムにより、北海道知的財産情報センターとオホーツク産学官融合センター、十勝産業振興センター(帯広)、道立工業技術センター(函館)の4機関をネットワークで結ぶ北海道知的財産情報センターサテライト(以下「情報サテライト」という。)の運用が開始されました。

この情報サテライトは、北海道経済産業局、(社)発明協会北海道支部、(独)工業所有権情報・研修館札幌閲覧室、北海道知的所有権センター、日本弁理士会北海道支部の5機関で札幌駅北口に開設している「北海道知的財産情報センター」のサテライトを、北見・帯広・函館に設

けて地域の知的財産登録・運用の相談に応じ、札幌以外にほとんど弁理士のいない現状改善策として北海道の経済活性化に貢献しようとの主旨により設置されました。15時からの開所式には、札幌の知財情報センターに嵐田昇北海道副知事、深野弘之北海道経産局長らが出席し、祝辞と今後の活用が述べられ、本学情報サテライトでは鮎田学長、(株)倉本鉄工所社長倉本氏、北見商工会議所副会頭長谷川氏らをはじめ学内外の産学官関係者が参列し開設を祝いました。このTV会議システムの導入により、知財の相談に札幌の北海道知的財産情報センターまで足を運ぶ必要がなくなり、時間・費用が画期的に効率化されることになりました。



設置されたTV会議システム機材



深野経産局長の祝辞:画面左上(札幌)  
右上:本学、左下:函館、右下:帯広



挨拶する鮎田学長



期待感を述べる鞘師知財本部長

## オープンキャンパスの実施

(入 試 課)

7月26日(土)に大学進学を希望する高校生等を対象としたオープンキャンパスが開催され、道内外から高等学校教諭、父母等を含む232人(昨年度より33人増)が参加しました。前日からの不安定な天候により雨が心配されましたが、当日は特に問題なく開催され、参加者は熱心に体験授業等に取り組んでいました。

学長挨拶、佐々木副学長による大学案内、3系列紹介のリレートークが実施され、その後は各学科において体験学習第1部が行われまし

た。昼食は大学生協の協力により、学食体験として参加者全員に大学生人気メニューが提供されました。

午後からも引き続き、体験学習の第2部が行われた後、コミュニケーションアトリウムにて各学科・在学生等による個別相談を実施して終了しました。

参加者からは、「大学を知ることが出来た」「受験に向けた目標になった」等の声が聞かれました。



リレートーク



体験学習①



学食体験



体験学習②

## 「ものづくり工房」使用の手引きの一部改正について

(研究協力課)

ものづくりセンター附属「ものづくり工房」については、平成19年5月に定められた「使用の手引き」に従って皆様にご利用頂いておりますところ、今回、ものづくり工房をさらに活用して頂くために手引きの改正を行いました。主な改正点は以下のとおりです。

### I. 技術員が在室している場合

使用者の利便性のため、当面(6月～8月中旬)、技術員が午前または午後2時間程度工房に在室して、簡単な加工指導を含む技術相談を行います。

- 1)この時間帯には、研究目的での使用が可能となりました。教職員及び学生が研究目的で使用する場  
合、簡単な加工指導を含む技術相談を行うとともに、必要に応じ、ものづくりセンターへの窓口業務を  
行います。
- 2)学生には「ものづくり教育」の観点に立った技術相談を行います。公序良俗に違反しないものであれ  
ば、私的な使用も認めます。

### II. 技術員が在室しない場合

利用は従来通りとなります。

今後、皆様のさらなるご意見を取り入れて、より利用しやすいものづくり工房へと変えていく予定です。ご理解を頂き、どしどし利用して頂ければ幸いです。



= 日誌 =

(企画広報課)

6 月

- 3 日 役員会  
施設環境委員会
- 6 日 情報技術まちづくりフェア  
北苑祭(～8日)
- 9 日 役員会  
技術士養成支援講座
- 10 日 発明審査委員会  
教務委員会
- 11 日 平成21年度編入学試験(推薦による選抜)
- 12 日 教育研究評議会
- 13 日 経営協議会、役員会  
ベストティーチング賞表彰式
- 16 日 役員会
- 17 日 入学者選抜委員会
- 18 日 教授会、研究科委員会
- 19 日 北海道中小企業家同友会オホーツク支部道  
研実行委員会
- 21 日 父母懇談会(北見)  
大学祭(～22日)
- 24 日 地域共同研究センター産学官連携推進員  
会議  
健康チェック・栄養相談
- 27 日 情報システム運営委員会
- 30 日 研究者のためのオープンセミナー

7 月

- 1 日 北海道知的財産情報センターサテライト開  
通式
- 2 日 平成21年度編入学試験(学力による選抜)
- 3 日 北海道中小企業家同友会オホーツク支部道  
研実行委員会
- 5 日 発明審査委員会
- 6 日 北海道地区大学体育大会(剣道)
- 7 日 役員会
- 8 日 入学者選抜委員会
- 9 日 教授会
- 10 日 ピア・サポーターフォローアップ研修
- 14 日 役員会、役員懇親会
- 15 日 教務委員会
- 16 日 教育研究評議会
- 17 日 内部監査報告会
- 23 日 中期構想検討特別委員会
- 24 日 図書館委員会
- 25 日 インターンシップ事前研修会
- 26 日 オープンキャンパス
- 29 日 地域共同研究センター産学官連携推進員  
会議  
オホーツク人と環境プロジェクト運営協議会
- 30 日 科学研究費補助金パワーアップセミナー
- 31 日 安全衛生委員会  
地域連携推進委員会